

4 (1) 本時で培いたい学び方

人類は必要に迫られ様々な工夫を重ねることで文化を発展させており、日本や世界各地で同じように発展したのだと理解し関心を高める学び方

4 (2) 本時のねらい

マンモスの捕らえ方を多面的に考え、妥当かを多角的に吟味する活動を通して、人類は食料を手に入れるために考えたり協力したりする中で石器・火・言葉などの文化を発展させてきたこと、日本列島でも同じであること、その後日本列島でも国ができていくことに関心を高めようとする事ができる。

4 (3) 本時の展開

	ねらう生徒の姿	(生徒の意識・発言) ・生徒の動き	教師の働きかけと意図	資料 ・体験させたい学び方
つくる	「人類の祖先がマンモスを食べていた事」を理解した上で「マンモスの巨大さ」を驚きと共にとらえ、「非力なはずの人類の祖先がどのようにして捕らえたのか」疑問を持ち、解決したいと思う。	(マンモスを食べていたなんて驚きだ) (マンモスはそのなにも大きい!?) (そんなに大きなマンモスを食べていたなんて、どのようにして捕らえたのだろうか?)	・ウクライナのメジリチ遺跡(約2万年前)で、マンモスの骨が数百体分、石器や火をたいた跡とともに発掘された。骨を家の構造材にも使用。 マンモスを食べていた。 ・マンモスの写実的な絵を提示し、肩の高さが天井を越し体長が黒板の横幅ほどもあること、皮膚と脂肪で10cm以上あることなどを具体的に示す。肩高2.8~3.5×全長5.4m。 (食べていたという事実を示した後、大きさを具体的に思い描かせることで、一人ひとりに左記のような思いを生じさせ、本時の課題を設定する)	資料集 P4 メジリチ遺跡 マンモスの骨を柱などにした家(1頭1500食分) バイカル湖北のマリタ遺跡(約2万3千年前) マンモスの写実的な絵
学	本時の導入で得た情報や自分がこれまでに得た情報をもとに様々な可能性を考えたり、友だちの発想から学んだりして、できる限り多面的に可能性を考え、その後どの予想を指示するか挙手で示す。	・発想を広げながら予想を立てる(石・打製石器・骨器・ヤリ・火・毒の使用) (えさ・おとりの使用)(子どもをねらう) (落とし穴・沼地・崖・罠に追い込む) ・仮に現段階でどの予想を指示するかを決めて、挙手により公の場に示す。	・現実には採用された可能性が高くないと思われる方法も含めて、アイデアを多面的に出せるように、最初は批判を禁止して様々な発想を出させる(ブレンストーミング)。 ・「単純に攻撃して捕らえる発想」から「何人もが協力して捕らえる発想」へと思考を展開しやすいように、出された予想を2つの観点に分けて板書する。 ・「出された予想の実現可能性を吟味したい」という話し合いへの意欲を高めるために、どの予想を仮に指示するか問い挙手で応える場を設け、予想分布人数を板書する。	・発想を広げ可能性をできる限り多面的に考え、思考を方向付ける選択肢を増やす学び方 ----- ・発想を広げる場とは異なり、当時の人々に可能かを多角的に検討し、真実に迫ろうとするする学び方。
あ	予想が当時の人類に実現可能かを友だちの意見から学ぶなどして多角的に検討し、予想を組み合わせたり修正したり新しく発想したりし、より可能性が高い考えを持つ。	・賛成・反対の理由や意見・疑問等を発表する ・友だちの意見から学び、予想を立て直したり、既存の予想を組み合わせたりする 例(大きな落とし穴を掘って、驚かせて追いついて落とし、ケガをしたところに石や槍をたくさん投げて攻撃する)	・予想を出した人と予想そのものを区別して議論するために、「さんの予想」ではなく「この予想」に対して発言するように助言し、実行したら価値づける。 ・最初に結論を次に理由などを語るように助言し、実行したら価値づける。 ・予想を裏付ける証拠を示せるか問い返す or 資料を論拠として当時の人類に可能かを考察した発言について、証拠を示した(示そうとした)ことを高く価値づける。 ・議論が白熱したり、予想が複雑に変化したりするので、予想分布をとり直す。	・議論を深め真実に迫るため、予想を対象化したり、聞き手に理解してもらいやすい発言方法を工夫したり、論拠を明確にしたり、自分や友だちの考えの変化を明確にしたりする学び方。
う	発掘成果から分かる事を確認し、まだ分からないことは保留したまま、捕らえ方の具体的なイメージを描く。	(考古学者も自分たちと同じだな) (マンモス用の落とし穴を掘るのは、大変だろうな。大勢が協力したに違いない) (日本でも、象を食べていたのだな)	・考古学者も同じ様な予想を立て議論し、証拠発見を待ったことを伝える。 ・米アリゾナ州で打製石器がいくつも食い込んだマンモスの骨が出土。 ・シベリアで深さ4mの穴から、固い物で何力所も割られたマンモスの骨が出土。 ・日本の野尻湖でも、湖畔の泥に埋まるように解体されたナウマン象の骨が出土。	米アリゾナ州：石器が食い込んだマンモスの骨 シベリア：落とし穴 野尻湖：獲物を解体した跡
ふ	大型動物を捕らえるには大勢の協力が不可欠であることを根拠として、言葉をつかっていたと判断し、集団の規模に着目することから文化の発展や国の成り立ちについて関心を高める。	(話し合ったりして協力しないと捕らえることは難しいので、言葉を話していたはずだ) (協力しあってはいたけれど、数十人程度の集団だろうから、まだ国とはいえないと思う。でも、今は日本などの国がある。どのように文化を発展させ、国としてのまとまりをつくってきたのを知りたい。)	・彼らは細かい意志まで伝えられる言葉を話していたかを問う。 ・学者の考え：組織的な協力がなければ捕らえることはできないので、話していた。 ・言葉を話していた彼らは、国をつくっていたかを問う。 (当時は国といえるほどのまとまりはなかつただろうという判断と、現在は日本などの国があるという事実から、特に日本に注目させ、文化がどのように発展し、どのように国になっていくのを知りたいという思いを生じさせ、単元を貫く課題を設定する。)	・本時で学び具体的に描いた当時の人々のイメージを総動員して、未知の事柄について整合性を損なわないように判断をする学び方。
<p>単元を貫く課題：日本に住んでいたヒトは、どのように文化を発展させ、国としてのまとまりをつくってきたのだろうか。</p>				

